



**TAKUSHOKU UNIVERSITY 拓殖大学**  
**SHARIAH RESEARCH INSTITUTE イスラーム研究所**  
3-4-14, Kohinata, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8585, JAPAN  
Tel:81(Japan)-339479406, Fax: 81(Japan)-339479416

平成30年4月吉日

## タフスィール(クルアーン解釈)公開研究会のお知らせ

イスラームの原点であるクルアーンの理解を深めるための拓殖大学イスラーム研究所タフスィール研究会は、今年度でいよいよ13年目を迎えます。今年度も引き続き、クルアーンに興味のある方ならどなたでも参加できる公開研究会という形式をとり、参加者を募集します。今年度は5回開催し、毎回一人の発表者が担当します。

### 研究会の趣旨:

イスラームの啓典「クルアーン」は、ムスリム(イスラーム教徒)の行動の原点です。ムスリムは行動の正当性をクルアーンの解釈の中に見出し、さらに、政治、経済、文化など社会生活のすべてにおいても、その正当性をクルアーンの解釈の中から導き出していると言っても過言ではありません。そのためイスラーム誕生の当初から、ウラマー(イスラーム学者)は様々な角度からクルアーンの解釈に挑戦し、1400余年の歴史と広大な版図の中で、多くの解釈書が著されてきました。現代のイスラーム研究者にとって、クルアーンがどのように解釈されてきたかを知る事は、イスラームの理解にも、イスラーム社会の現象を理解する上でも欠かせません。しかしイスラーム世界のウラマーによって書かれたクルアーンの解釈を解明していくためには、アラビア語はもちろん、イスラーム学の素養が必要となるため、イスラーム圏においてイスラーム諸学を修めた研究者の協力を得てその機会を得る事ができました。今後も年次を追って、研究会を積み重ねていくことによって、日本におけるイスラーム理解の基礎を確立していくことができると考えています。

### 研究方法:

クルアーンの中でも特にムスリムが毎日の礼拝のたびに口にする第1章の「開端(アル・ファーティハ)章」(7節)とムスリムの日常生活に関わりの深い規定が多数記述されている第2章「雌牛(アル・バカラ)章」(286節)の解説を取り上げた第1回(2006年)から、順調に回を重ねて、9年目には第12章「ユースフ章」(111節)および第13章「ラアド(雷電章)章」(43節)、10年目には、第14章「イブラーヒーム章」(52節)、第15章「アル・ヒジュール章」(99節)および第16章「蜂蜜章」(128節)、11年目には第17章「夜の旅章」(111節)、第18章「洞窟章」(110節)、12年目には第19章「マルヤム章」(98節)、第20章「ターハ章」の98節までを研究しました。

そして、13年目になる今年度は、第20章「ターハ章」の99節～135節と、第21章の「預言者章」(112節)を古典的な解釈書、現代的な解釈書を合わせて読んでいきます。

各章を大きく5つに分け、それぞれの担当が分担し、重要な部分を中心に解説していきます。

回数：年5回(正確な日時や場所については追って参加者に通知)

2018年

第1回	5月12日(土)	14時～16時	発表者:森	(第20章99～132節)
第2回	7月21日(土)	14時～16時	発表者:四戸	(第20章133～135節) (第21章1～20節)
第3回	9月15日(土)	14時～16時	発表者:野村	(第21章21～47節)
第4回	11月17日(土)	14時～16時	発表者:武藤	(第21章48～82節)
第5回	12月15日(土)	14時～16時	発表者:柏原	(第21章83～116節)

対象：可能な限り、年間を通じて研究会に参加できる人

研究メンバー：

森 伸生	イスラーム研究所長
野村明史	海外事情研究所助手
四戸潤也	同志社大学神学部教授
武藤英臣	イスラーム研究所シャリーア専門委員会委員長・研究所名誉教授
柏原良英	イスラーム研究所客員教授

(発表順)

年度登録費：初回参加時に 登録費として1,000円 (初回参加時にお支払いください)

参加希望者は、FAXで申込用紙をご送信下さい。

.....

送信先：拓殖大学 学務部オープンカレッジ課

FAX : 03(3947)7265

研究会についてのお問い合わせ

拓殖大学イスラーム研究所 TEL : 03(3947)2418 (平日 13時～18時)